

「藍場浜公園西エリアにおける新ホール早期整備プラン（素案）」に係るパブリックコメント実施結果について

令和6年12月20日（金）から令和7年1月20日（月）までの間、「藍場浜公園西エリアにおける新ホール早期整備プラン（素案）」に対するご意見を募集した結果、29名の方から99件のご意見をいただきました。いただきましたご意見と県の考え方は次のとおりです。

番号	意見（概要）	回答
1	「他県における公立文化ホール施設の状況」を見ると、1,500席規模以上の文化ホール建設は徳島県が全国で最後に整備する県であることが分かります。他県の事例などを参考にしながら、徳島県の新ホールが「県民から愛される素敵な施設」となることを期待して意見を述べさせていただきます。P12に、文化団体から「設計にあたって、意見をしっかりと聞いてほしい」との意見が出ています。利用者が納得する使いやすい施設とするため、基本設計や実施設計のポイントになる時点では文化団体、舞台技術関係者、プロモーターの意見を反映させながら進めていただけたらいいと思います。	これまで、令和6年7月から8月にかけて興行関係者等に、10月から11月にかけて県内主要文化団体にそれぞれヒアリングを行うとともに、11月から12月にかけては、専門家を交えた「新ホール早期整備プラン意見交換会」を開催してきたところであり、今後も多くの皆様の声をいただきながら、新ホール整備を進めてまいります。
2	現在は建設のための準備ですから当然のことですが、ハード面を中心に、しっかり構築された素案だと思います。さらなる素案の具体化と充実を図ることで、設計発注時の重要な内容として完璧を期すようお願いしたいと思います。私は、素案の一部にも触れている完成後の文化振興策はむろんと思う一方で、完成前にも県民の芸術文化（スポーツ文化も含めて）に対する意識高揚策やレベルアップ策が講じられるべきと考えています。それは県民の文化の後進性はあまりにひどく、それは一朝一夕には改善できないと思うからです。徳島県で過ごしたがゆえに、高いレベルの文化に接する機会もないまま生涯を終える人たちが居る現実も遺憾でもあり、不幸きわまりないのではないのでしょうか。この対策はひとり行政に問題があるのではなく、そもそも県民に芸術文化等への関心が高くない上、国際レベルにあるクラシック音楽に触れる喜びや最高レベルの演劇などに接した感動など、いわゆる本物から得る心の糧を重視し、そうした経験を求めていく傾向が平均的にあまりに不足しているからです。そうした低水準からいかに脱皮していくのかが今後解決しなければならない大きな課題があり、新ホール建設の道程において、完成を待たずして、そうしたソフト面の県民の意識改革に果たす役割は大きいと考えます。県民の意識改革のリードを行政と文化団体、スポーツ団体等が役割を分担し協力しながら県民を巻き込んでの長期ビジョンを立てて、取り組むべき時期にあると考えます。	新ホールが、開館後その機能を最大限に発揮して、本県の文化芸術振興や、創造発信拠点となり、また、県都のにぎわいづくりに寄与していくため、新ホールの開館前から、機運醸成に向けた取組を進めてまいります。
3	■1「新ホール整備」検討の経緯 本文中に、「新ホール整備の検討経緯(まとめ)」に入っている「県民アンケート(R5.8～9)」についての記述がない。「県民アンケート」は、「新ホールの規模」、「小ホールの必要性」に関する方針の転換に大きな影響を及ぼしたと考えており、記載すべきである。「グランドデザイン(R5.11)」の内容についての記述がない。新ホールの候補地変更に至った理由が分かりにくく、説得力に欠ける。	「新ホール整備」検討の経緯については、主な内容を1～3ページの全体で端的にまとめています。 なお、令和5年11月にお示した魅力ある県都のまちづくりに向けたグランドデザインについては、徳島県ホームページにイメージ動画を公開していますので、そちらをご参照ください。 【参考】県都 とくしま まちづくり グランドデザインイメージ https://www.pref.tokushima.lg.jp/ippanokata/kendozukuri/toshikeikaku/7235449/

番号	意見（概要）	回答
4	■7 これまでの意見 「県市協調未来創造検討会議（新ホール部会）における委員意見（R2.10～12）」の次に、 ■8 県民アンケートにおける意見（R5.8～9）」を追加し、その内容について具体的に記述すべきである。	新ホール整備の見直しに向け、令和5年8月から9月にかけて実施した県民アンケートの結果について、「8 新ホール整備見直しに向けた「県民アンケート」における意見」の項目を追加しました。 なお、この県民アンケートでは、「自由記載による意見募集」、「電話アンケート調査」、「書面アンケート調査」の3種類を実施しており、そのうち「自由記載による意見募集」では、設問項目を設けず、広く県民の率直な声をお聞きする形といたしました。
5	新ホールの早期整備について。令和5年の「県民アンケート」に参加し、早期整備を願った一人として、1年半経った今も、新ホールの整備が遅々として進まず、停滞している現状は、非常に残念であり、憤りを感じる。要因はいろいろあると思うが、最大の要因は、既計画の方針転換に大きな影響を及ぼした「県民アンケート」に、「場所の変更」が入っていなかったことにあると考える。県・徳島市の膠着状態を打破する唯一の方法は、今からでも、原点に戻り、「場所の変更」に特化しての「県民アンケート」を実施することだと考える。真摯に、また早急に検討してもらいたい。	【参考】「新ホールにおけるソフト面の可能性に関するヒアリング」の結果 https://www.pref.tokushima.lg.jp/ippanokata/kyoiku/bunka/7219049/
6	現在計画中の公園敷地のみでは狭い。荷捌きスペースや駐車場が十分に確保できず、あわぎんホールの通路、搬入ルートを使用するとそちらのスケジュールに制約がでる、本末転倒。そこで提案は新町川に人工地盤を設けて、例えば、客席部分を川部に、舞台やバックヤード部を公園敷地部に配置する等前例のない計画とする。それにより敷地全体に余裕が生じる。もちろんいろいろと規制があり簡単に事が進むとは思えないが。東急田園都市線の二子玉川駅は多摩川にかかっているし、巨大な橋梁の基礎・柱が河川内に林立している事例は多数ある。河川内に工作物を構築することは不可能ではないと考える。必要な労力、時間、金は膨大なものになると思うが挑戦するべき。さらに新町川面に水上舞台を浮かべて（羽田空港D滑走路の一部のような）野外コンサート会場とする。「ローマの休日」のワンシーンのイメージ。	令和6年2月から6月にかけて実施の「藍場浜公園西エリア」における施設の規模、機能等の具体化を図った「新ホール整備候補地調査業務」において、調査モデルプランを作成し、大ホールの客席（3層・1,504席＋仮設席・立見席）をはじめ、舞台（開口幅・奥行きともに約18m）、搬入口（11tトラック2台分）、楽屋、ホワイエ、リハーサル室、多目的スタジオ、活動室等の配置が可能であることを確認しております。 また、同地における土地条件の中で、整備コストやスケジュールなどの要素も踏まえながら、可能な限り、高い機能性を持った新ホールの整備を進めてまいります。 【参考】「新ホール整備候補地調査業務」の概要 https://www.pref.tokushima.lg.jp/ippanokata/kyoiku/bunka/7242559/
7	敷地が狭いため、建物内のゆとりあるホワイエや、ホール外での来館者の安全な待ちスペースが確保できないのではないかと。	
8	大ホールの機能については、P30から記されている舞台、楽屋、リハ室、ホワイエ、搬出入等のスペース、導線確保など関係者等の意見をもとに記されていますが、いずれもこの狭い面積内でゆとりを持ったスペース確保はかなり困難と思われます。少なくとも海外のフルオーケストラを呼べる舞台規模、楽屋の居住性などとともに、本県ならではの阿波おどり公演時の数百人の出演者がスムーズに出入りでき一定時間待機できるスペースなども考慮する必要があります。また、来場者が公演前後にゆったり過ごせるホワイエの広さ、機能とともにトイレ数の確保は欠かせません。こうした機能を高層階にせずに確保できるレイアウトも早期にお示しいただき各関係者と議論されることを望みます。	
9	私は隣の新町川が工事の妨げになると近辺の方に聞いたことがあります。徳島駅の高架に合わせて駅直結のホールで渋滞もなくスムーズに北口も期待されると思います。市立体育館への流れもスムーズだと感じます。高松が開業するだけに後手後手な案だけは避けてほしいです。	

番号	意見（概要）	回答
10	藍場浜公園西エリアの新ホール整備に疑問を感じている。駅前への車が集中するため、徳島の基幹道路である192号線に渋滞が起こり、経済や市民生活への影響が考えられる。	「自家用車」による来館の利便性確保が重要である一方で、隣接する国道192号沿いは、県内でも有数の交通量であり、これまで以上に車が集中することによる周辺道路の渋滞への影響を最小限とする必要があることから、交通アクセスの分散を図っていく必要があります。
11	アクセスについてですが、都市部のホールはもとより、県庁所在地のホールで近隣に大型の駐車場整備をしている例をあまり見ません。都市景観からしても殺風景で、駐車場よりはやすらぎの緑地空間を設けることが望ましいです。国道に面している場所であることから常時交通量が多い道路への出入りは渋滞を招くとともに公演前後の喧噪の光景はあまりいいものではありません。そのため、徳島駅や周辺民間駐車場、バス停等から徒歩で来場いただき、周辺飲食店舗等で滞留していただくことも考慮する必要があります。魅力ある公演・イベントへの参加はその前後2時間程度をどのように過ごすかも含め大事な要素であることを考えていただきたいと思います。	実際に、近年整備された1,500席以上の類似ホール施設において、特に、県庁所在地に立地するホールについては、周辺民間駐車場を効果的に活用しつつ、公演開催日に大型駐車場が集うエリアからシャトルバス運行を行うなど、管理運営面で工夫を行いながら運営を行っているケースも多い状況です。 新ホール整備にあたっては、そうした先進事例も踏まえ、来館者の利便性向上につながるよう努めてまいります。 【参考】中四国地方における主な県立ホールの駐車場設置状況 ・鳥取県立県民文化会館 343台（図書館、公文書館との共用） ・島根県民会館 40台（周辺に提携駐車場あり） ・広島県立文化芸術ホール 一般駐車場なし ・香川県県民ホール 一般駐車場なし（車椅子利用者駐車場あり） ・愛媛県民文化会館 303台 ・高知県立県民文化ホール 一般駐車場なし（主催者駐車場あり）
12	あわぎんホールのイベントでも駐車場はいっぱいになります。地下駐車場を減らしてどこにとめられるのか具体的な検討はされているのですか。近くの駐車場が何台あるとプランには書いていますが、多くの駐車場は会社等に貸し出しており、空きスペースが多くあるとは思えません。	「自家用車」による来館の利便性確保が重要である一方で、隣接する国道192号沿いは、県内でも有数の交通量であり、これまで以上に車が集中することによる周辺道路の渋滞への影響を最小限とする必要があることから、交通アクセスの分散を図っていく必要があります。
13	新ホール整備により従来の駐車場が半減し、今以上の駐車場不足になる。その対策として、県のプランではP19で具体的アクセス方法が示されているが、半径500m圏内の駐車場利用や、SNSでの民営駐車場予約等は、今後ますます増加していく高齢の利用者にとって現実的ではない。また、公共交通機関の利用促進については、趣旨としては賛成するが、県全体の利用者からみると、鉄道やバスの減便や市内居住者であっても21時以降のバス運行が無いなどから、車での利用は仕方ないと思われ、絶対的な駐車場不足が懸念される。	実際に、近年整備された1,500席以上の類似ホール施設において、特に、県庁所在地に立地するホールについては、周辺民間駐車場を効果的に活用しつつ、公演開催日に大型駐車場が集うエリアからシャトルバス運行を行うなど、管理運営面で工夫を行いながら運営を行っているケースも多い状況です。 新ホール整備にあたっては、藍場浜公園地下駐車場の影響を最小限にとどめる工夫を行いながら設計を進めるとともに、そうした先進事例も踏まえ、来館者の利便性向上につながるよう努めてまいります。
14	新ホールには大型観光バスが乗り入れられる駐車スペースを確保してもらいたい。	団体利用者のアクセス手段として活用される可能性がある大型バスでのアクセスについて、そのニーズを把握し、乗降場所等の配慮を行ってまいります。
15	駐車場不足は問題です。また、新ホール建設で駐車場の一部を解体する計画ですが、車椅子利用の方など身体の不自由な方などが利用しやすい駐車場の確保という観点も抜けており問題があると思います。費用がかかっても、駐車スペースの確保や身体の不自由な方などがアクセスしやすい施設づくりが大事と考えます。現在でも、ちょっとした催し物があるだけで藍場浜の駐車場は満杯になり、不便を感じることも多々あります。文化団体からも駐車場を確保してほしいとの意見がでているのに、新ホール計画ではこれに反して駐車場の一部を解体し潰す計画となっています。代わりに民間駐車場を使う計画が示されていますが、アクセスが不便な民間駐車場が多いです。また、車椅子利用の方など身体の不自由な方などが民間駐車場から新ホールへアクセスするのは困難だと思いますが、その対策が検討されていません。また、現在は、車椅子利用など身体の不自由な方などがあわぎんホールを利用する際には、藍場浜駐車場のエレベーターが使っていますが、新ホール建設のための駐車場の一部解体によりこのエレベーターも使えなくなるので、あわぎんホールへのアクセスが難しくなると思います。費用がかかっても、駐車スペースの確保や身体の不自由な方などがアクセスしやすい施設づくりが大事と考えます。	「身体障がい者駐車場」や「車寄せ」等については、「第5 施設整備計画」の「2 施設の構成と機能」で配置する旨を記載しておりますが、「第2 基本的事項」の「6 建設用地（②具体的アクセス方法）」にも、「敷地内には、衣装、楽器、その他公演に必要な荷物を持って出入りする主催関係者の利用や、歩行困難や移動に配慮が必要な方などの利用を見据え、「主催者駐車場」及び「身体障がい者駐車場」、「車寄せ」を設けます。」と記載を追記しました。 また、新ホール整備によって、既存のあわぎんホール利用者の使い勝手に可能な限り影響を与えないよう努めてまいります。

番号	意見（概要）	回答
16	駐車場を周辺の民間施設に期待しているがこれは有料であることを前提としている。他県ではどうなのか。あるいはホール利用者は無料にするシステムがあるのか。	特に、県庁所在地に立地する他県の類似施設において、ホール専用駐車場を設ける場合においても、有料で運用していることが多い状況です。中には、民間駐車場との提携により、一定の割引を行うホールもあると認識しています。
17	P21に「具体的な事業展開」について記載されています。インターネットは県内どこからでも見える環境だと思います。文化芸術の裾野を広げるためには、県民が参加する主催事業の様子をプライバシーに配慮しながら発信していただけたらいいと思います。	広域的な取組を行う県立ホール施設として、新ホールの建設用地の徳島市内周辺はもとより、遠隔に居住の方にも、新ホールが関わる事業の効果が波及する取組を進めていく中で、インターネット等も効果的に活用してまいります。
18	今のあわぎんホールの状況を考えると、連携して使うのは難しいと思います。	現状、あわぎんホールは、文化芸術の公演や練習利用はもとより、展示会、会議利用など様々な用途で利用され、大ホール（80%前後）をはじめ、各諸室において高い稼働率となっており、これまで、耐震改修、外壁改修、各設備の更新などの修繕を実施していますが、現時点では安全性に特段の問題はないことから、当面の間あわぎんホールを活用することといたします。 また、使用目標年数である65年は、「中長期予防保全計画」のもと、ひとつの目安であり、必ずしもこの期間を超えた施設存続ができなくなるわけでないことから、現時点では、あわぎんホールを存続させていくこととし、新ホール開館後、鳴門市文化会館リニューアル開館後の影響等を踏まえた利用ニーズの変化や、設備等の老朽化、修繕コストなどの状況を見極めながら、あわぎんホールのあり方について検討していくものと考えております。
19	■4 県内文化ホール施設等との連携 (1) あわぎんホールとの連携 あわぎんホールは、『竣工後53年を経過』『築65年を使用目標』と記述されている。そうした中、『当面は、新ホールとあわぎんホールの2館が隣接して立地することを見込みます』との表現は、あわぎんホールの将来展開を曖昧にしている。新ホールがオープンする頃には、「あわぎんホールをどうするのか」についての議論が始まっていることが予想される。一方で、「小ホールの的に使う」との説明もある中、今回、一体として、あわぎんホールの具体的な方向性（建て替え、廃止、徳島市への移譲など）の検討をしておかないと、将来的に混乱を招くのは必至である。	
20	隣のあわぎんホールは、1971年開館の老朽建築です。改修を重ねてP25にあるように築65年を使用目標とするとされていますが、そうすると2034年までとなり、仮に当ブランドおり今年度から最短5年で完成に至っても残り4年もしくは3年程度しか使用できなくなり、P25に記されているようなあわぎんホールとの連携などはほとんど意味をなさなくなるとともに、あわぎんホールの解体、跡地利用でまた議論沸騰とともに工事等に伴う様々な問題が噴出することが予想され、いつになれば綺麗な藍場浜公園エリアで落ち着くのか疑問です。	
21	新ホールはあわぎんホールと一体活用を図るので小ホールは作らない計画となっていますが、このあわぎんホールは築65年（西暦2036年になります）までしか使わないと記載しているのに、あわぎんホールが使えなくなる2036年以降の対策について、全く検討が行われていないのは大きな問題です。 あわぎんホールは築65年の2036年までが利用目標とのこと。一方、新音楽ホールの建設から完成までに5年かかるので、完成は早くても2030年となり、あわぎんホールと一体活用できる期間はわずか6年しかなくなります。その後はどうするのか。2036年以降に、あわぎんホールの建替えをするのならば、今検討している新ホールを作るのは止めて、現在のあわぎんホールの機能を併せ持った別の新たな総合新ホール施設として建設の方が総合的に費用が安く、機能的にも充実した物になると考えます。こうした点も踏まえた、新ホールとして計画すべきと考えます。	

番号	意見（概要）	回答
22	整備プランにおいて、あわぎんホールの活用を理由に、小ホールは設けないことになっていますが、これにも反対です。あわぎんホールは1971年の完成から53年余りが経過しています。使用目標の65年を迎えるまでに、残り12年弱しかありません。藍場浜公園でのホール建設の工費には4年8か月が見込まれること、昨今の建設業における人手不足から工期短縮は望めず、むしろ延期のおそれがあることから、藍場浜公園でのホールと、あわぎんホールの「一体活用」ができる期間は7年程度に過ぎません。安全性に特段の問題がないことを理由に、あわぎんホールの長寿命化に取り組むとしていますが、2024年にあわぎんホールでコンサートを開催した、とあるアーティストは、楽屋の不衛生さに不満をこぼしており、施設の老朽化は否めません。これ以上の長寿命化は不適切であり、あわぎんホールの活用および一体利用は絵に描いた餅、賞味期限が迫った餅と言えるでしょう。	現状、あわぎんホールは、文化芸術の公演や練習利用はもとより、展示会、会議利用など様々な用途で利用され、大ホール（80%前後）をはじめ、各諸室において高い稼働率となっており、これまで、耐震改修、外壁改修、各設備の更新などの修繕を実施していますが、現時点では安全性に特段の問題はないことから、当面の間あわぎんホールを活用することといたします。 また、使用目標年数である65年は、「中長期予防保全計画」のもと、ひとつの目安であり、必ずしもこの期間を超えた施設存続ができなくなるわけでないことから、現時点では、あわぎんホールを存続させていくこととし、新ホール開館後、鳴門市文化会館リニューアル開館後の影響等を踏まえた利用ニーズの変化や、設備等の老朽化、修繕コストなどの状況を見極めながら、あわぎんホールのあり方について検討していくものと考えております。
23	あわぎんホールの将来展開について。人口が少なく、また人口減少の著しい本県にとって、大ホール、中ホール二つを県立で持つ余裕はあるのか、大いに疑問を持っている。「小ホールは必要ない」との前提で、既計画を見直したのであれば、新ホールと並行して、徳島市への移譲を含め、廃止を前提に検討すべきと考える。	現状、あわぎんホールは、文化芸術の公演や練習利用はもとより、展示会、会議利用など様々な用途で利用され、大ホール（80%前後）をはじめ、各諸室において高い稼働率となっております。 現時点では、あわぎんホールを存続させていくこととし、新ホール開館後、鳴門市文化会館リニューアル開館後の影響等を踏まえた利用ニーズの変化や、設備等の老朽化、修繕コストなどの状況を見極めながら、そのあり方について検討していくものと考えております。
24	整備プランではあわぎんホールとの連携を強調されているが、P25に示されたあわぎんホールの65年という使用目標年数では、新ホール完成後数年で、あわぎんホールは使用できなくなる計算で、その後はどうするのか説明不足である。	あわぎんホールの使用目標年数である65年は、「中長期予防保全計画」のもと、ひとつの目安であり、必ずしもこの期間を超えた施設存続ができなくなるわけでないことから、現時点では、あわぎんホールを存続させていくこととし、新ホール開館後、鳴門市文化会館リニューアル開館後の影響等を踏まえた利用ニーズの変化や、設備等の老朽化、修繕コストなどの状況を見極めながら、あわぎんホールのあり方について検討していくものと考えており、「第3 事業展開」の「4 県内文化ホール施設等との連携」にその内容を追記しました。
25	あわぎんホールとの連携も重要であるが、連携期間が10年未満と見込まれることから、あわぎんホール休館後のことも配慮する旨や検討する旨を記述するべきではないか。	
26	P26に「その他文化ホール施設との連携」について記載されています。「アスティとくしま」は有名アーティストのアリーナツアーによく利用されていますが、「あなぶきアリーナ香川」の完成により公演数が減るのではと危惧しています。「アスティ」との連携も密にして、これまで以上に有名アーティストの公演が徳島で開催されるよう頑張っていただけたらいいと思います。また、県全体の文化振興を目指すのであれば、私立大学や民間企業の立派なホールもありますので、これらとの連携もしていただけたらいいと思います。（文理大学むらさきホールや大塚ヴェガホール）	アスティとくしまとの連携について、いただいた意見は参考とさせていただきます。 また、大学施設や民間企業所有施設との連携について、施設の設置目的、規模・機能等も様々であることから、可能な範囲で連携を図り、幅広いニーズに応えてまいります。
27	運営手法について、「「指定管理者制度」を採用することを念頭に置く」理由を明示してもらいたい。	施設使命に基づいた事業展開や、高機能な施設、設備を安全に管理していくためには、管理者に高い専門性が求められ、中長期的な取組に向けた人材確保・育成が重要になってきます。 また、運営手法としては、主に「直営」、「指定管理者制度」があり、それぞれメリット、デメリットが考えられますが、複数年度にわたる事業展開が多く見込まれるなどのホール施設の特性を踏まえ、会計制度や雇用形態等の課題に対して柔軟な運用が可能であり、民間のノウハウを活用した効率的な経営が期待できるなどのメリットが大きいことなどから、「指定管理者制度」採用を念頭に置いており、その内容を追記しました。 なお、管理者の詳細の考え方については、今後検討を行う「管理運営プラン」の中で検討していくものとして考えていますが、ハード、ソフトの両面から隣接するあわぎんホールとの連携が必要不可欠なものとして認識しています。
28	管理運営（P. 27～）についてですが、長年文化芸術分野で従事してきた人材の活用は欠かせません。彼らの専門知識、経験が各種公演を主催するプロモーター、イベンターの方たちにも理解されてはじめて「またここをお願いしたい」とリピーターになってくれるものです。一方、「「指定管理者制度」を念頭に置き、現時点で「あわぎんホールとの連携」を見据えている、」というのは老朽化したあわぎんホール内に事務所を置く「徳島県文化振興財団」ありきの書きぶりで、疑問を禁じ得ません。そもそも指定管理者制度については、一昨年にも全国公立文化施設協会から現場の声として改善提言されていることをご存じでしょうか。私は、指定管理をはじめとするこれら行政経費のコストダウン施策が効率化の名の下に文化・芸術・教育を衰退させるきっかけになったと思っています。指定管理者制度では限られた経費の中、行政の注文も多く、一定期間が過ぎると継続した運営ができない不安の中モチベーションが保てず、スタッフの専門的知識・技量が生かせないこととなる恐れが多分にあります。	

番号	意見（概要）	回答
29	新ホールでは座席数最低1,500席と示されているが、今まで県内では開催されなかったオーケストラコンサートやミュージカル・オペラ観劇等には、1,800席程度のホールが望ましいのではないかと。また、P10の意見には、座席数が少なければチケット代金に反映されることもあるという指摘もある。子供から高齢者まで全ての県民に、身近に質の高い文化芸術活動を提供することが、新ホール整備に求められている使命だと考える。	新ホールにおいては、徳島県の文化芸術振興・創造発信の拠点、また、文化芸術と人をつなぎ、地域の発展を支える「新しい広場」として、施設使命に基づき様々な取組を進めることで、人や地域に新しい変化をもたらす、県民に親しまれ、誇りとなる施設を目指していきたいと考えています。 また、令和6年7月から8月にかけて実施した、興行関係者や1,500席規模の公立文化ホール施設等へのヒアリング結果も踏まえ、十分な幅と奥行きのある舞台や、大型車両が円滑に出入りできる搬入口などの機能性が高いホール整備に加え、管理運営面の工夫を行うことにより、様々なジャンルにおける質の高い公演の開催が可能であり、ランニングコスト面の優位性なども鑑み、大ホールは「1,500席程度」を下限としています。
30	やはり県民の利益を考えると2,000席規模のホールが必要ではないのか。1,500席規模は既に鳴門文化会館がある。30年以上も待たせておいて1,500席では貧相で魅力を感じない。このままでは他県に人が流れ県民はさらにプライドを失い活力を失い諦め人が集まるどころか人が出て行ってしまい衰退してしまう。こういう時こそ投資の考え攻めの姿勢が必要ではないのか。多くの人が価値ある良いホールができそうだと、明るい豊かな未来へつながると県民の希望の気持ちを上げてほしい。新次元の挑戦を期待している。	
31	1,500席程度で新ホール建設しようとしているとは情けない。これが徳島県民の身の丈ですか。違うでしょう。徳島県の魅力を最大化して人を呼び込み成長し発展させる気概はないのですか。	
32	大ホールの座席数が1,500席程度（下限）とされ、前計画では1,800席以上とされていたものが縮小され、本県を代表し他府県に誇れる芸術文化ホールを期待する県民からは失望感以外の何物でもありません。50年に一度の後世へ残すプロジェクトなのでランニングコストは別として、思い切ったイニシャルコスト投入を議論すべきでしょう。	
33	県民多数の希望を無視して、大ホールは1,500席規模で建設すると後藤田知事や県側の都合ですでに決まっているように感じるのが気に食わない。県民の声をため息を聞き入れてもっと県政に反映させてください。1,800席以上の大ホールでの建設を希望します。	令和6年7月から8月にかけて実施した、興行関係者や1,500席規模の公立文化ホール施設等へのヒアリング結果も踏まえ、十分な幅と奥行きのある舞台や、大型車両が円滑に出入りできる搬入口などの機能性が高いホール整備に加え、管理運営面の工夫を行うことにより、様々なジャンルにおける質の高い公演の開催が可能であり、ランニングコスト面の優位性なども鑑み、大ホールは「1,500席程度」を下限としています。 なお、上記のヒアリングを実施した文化ホール施設では、利便性が高い舞台や搬入機能等を備えることに加え、興行関係者との共催による事業の実施や、専門性・関連業界とのネットワークのある人材をホール職員として配置を行うなどの工夫のもと、J-POPから、クラシック、オペラ、ミュージカル、演劇、歌舞伎など幅広いジャンルの公演が行われており、実際に行われたイベント等の事例（令和2年度～令和6年度）を徳島県ホームページに公開していますので、そちらもご参照ください。 【参考】「新ホールにおけるソフト面の可能性に関するヒアリング」の結果 https://www.pref.tokushima.lg.jp/ippannokata/kyoiku/bunka/7244199/
34	徳島市民のコンセンサスを得ていた市民ホール跡地を反故にするのは、市民を無視した知事の暴挙である。旧案では羽根の広がったような素敵なデザインで、2,000席と中規模だったので、市民の多くは早期完成を心待ちにしていたと思う。しかし、後藤田知事の一声で市民を蔑ろにした1,500席という、全国最小のレベルのホールを造ろうとしている。1,500席では著名なアーティストは呼べず、県民は今まで通り他の都府県に行くことになる。1,500席程度なら文理大学のむらさきホール1,300席を解放させればよい。市民が望むのは旧案であり、鉄道関係は飯泉県政がやらなかった昔の案の方が費用も少ないので、そのまま進めるのが賢明である。後藤田知事の案は公約には入っておらず、公約違反であることは明白である。早急に旧案で工事を進めていただきたい。	

番号	意見（概要）	回答
35	当ホールで主にどのような公演、イベントを開催するのをもっと明確にした上で施設整備計画を策定されることは重要です。「様々なジャンルの質の高い公演」（P29）と記されていますが、1,800～2,000席程度でも一部の若い方たちが期待しているような有名アーティストによる公演はまず開催されることはありません（30～40年前のアーティストは別ですが）。県内ではアスティとくしまくらいでしょう。また、毎年全国規模の各種学会、大会の誘致により参加者数が2,000～3,000人規模のものは年数回開催され、分散方式で利用が見込まれます。最も今回のホール整備に期待を寄せられているのは地元の小中高校をはじめ、市民楽団、グループでしょう。こうした活動の拠点として誇りを持てるホール整備となることをなにより望むものです。	令和6年7月から8月にかけて実施した、興行関係者や1,500席規模の公立文化ホール施設等へのヒアリング結果も踏まえ、十分な幅と奥行きのある舞台や、大型車両が円滑に出入りできる搬入口などの機能性が高いホール整備に加え、管理運営面の工夫を行うことにより、様々なジャンルにおける質の高い公演の開催が可能であり、ランニングコスト面の優位性なども鑑み、大ホールは「1,500席程度」を下限としています。 なお、上記のヒアリングを実施した文化ホール施設では、利便性が高い舞台や搬入機能等を備えることに加え、興行関係者との共催による事業の実施や、専門性・関連業界とのネットワークのある人材をホール職員として配置を行うなどの工夫のもと、J-POPから、クラシック、オペラ、ミュージカル、演劇、歌舞伎など幅広いジャンルの公演が行われており、実際に行われたイベント等の事例（令和2年度～令和6年度）を徳島県ホームページに公開していますので、そちらもご参照ください。
36	大ホールの座席数は1,500席で進めるべきです。そもそも、テレビでよくみる人気のあるアイドルやバンドは、ホールツアーではなく、アリーナツアーが主となっていて、近年、その傾向が一層進んでいるように感じます。2,000席のホールを設けたからといって、そのようなアーティストが来てくれるというわけではないです。 過去に大きな客席数を備えたホールを作った施設は、運営に苦しんでいるところも多いようなので、ホールで行われる公演を冷静に分析し、ランニングコストや舞台機能とのバランスをとりながら整備をしていくことが大事だと思います。1,500席程度にして、搬入や音響などの機能に重点的にコストをかけて、選ばれるホールになることを期待しています。	【参考】「新ホールにおけるソフト面の可能性に関するヒアリング」の結果 https://www.pref.tokushima.lg.jp/ippannokat/kyoiku/bunka/7244199/
37	■1 施設整備の基本的事項 (1) 文化芸術振興、創造発信の拠点 『「1,500席程度」を下限、小ホールは、隣接するあわぎんホールを一体的に活用する』とあるが、小ホールの必要性に関して、県としての明確な方針を記述すべきである。 『「1,500席程度」を下限』との記述と対照的であり、小ホールの必要性について、将来的な曖昧さが残り、ここでも、将来的な混乱を招くのは必至である。	小ホールについては、活動ジャンルや主体によっても求める規模、機能等の考え方は様々であり、特に、規模については、「200席前後」、「500席前後」など、幅広い客席数のニーズがあるものと考えています。 隣接するあわぎんホールは、公演利用が可能な施設として、809席の大ホール（プロセニウム形式）、最大200席の小ホール（平土間形式）、最大500席の大会議室（平土間形式）を備えており、小ホールは、それらの部屋を活用していただくことを想定しています。
38	そもそも、藍場浜公園への新ホール建設に強く反対します。新ホールは従来の計画通り、文化センター跡地に建設すべきです。文化センター跡地での整備案における「大ホール1,800席、小ホールも整備」は、音楽関係者や有識者による会議を経て、学生コンクールの四国大会や全国大会を開くために必要な規模として定められた経緯があります。小ホールは大ホールほどの規模を必要としない、市民の利用に適した規模であるほか、上記大会におけるリハーサル室としても機能します。座席数の1,500席への縮小と小ホールの不整備は、音楽関係者の要望を軽視し、学生や小ホールの利用を望む市民に使い勝手の悪さを強いることになります。	令和6年7月から8月にかけて実施した、興行関係者や1,500席規模の公立文化ホール施設等へのヒアリング結果も踏まえ、十分な幅と奥行きのある舞台や、大型車両が円滑に出入りできる搬入口などの機能性が高いホール整備に加え、管理運営面の工夫を行うことにより、様々なジャンルにおける質の高い公演の開催が可能であり、ランニングコスト面の優位性なども鑑み、大ホールは「1,500席程度」を下限としています。 また、小ホールについては、隣接するあわぎんホールを一体的に活用することとしています。 なお、上記ヒアリングの際に、全国大会や地方大会（四国大会等）を開催している事例も確認しておりますが、あわぎんホールの一体利用も見据えて、搬入の利便性の確保等を図り、可能な限り大会・学会等の開催ニーズにも応えてまいります。

番号	意見（概要）	回答
39	P12に、文化団体から「客席の床は出来るだけフラットにしてほしい」との意見が出ています。舞台奥の動きを見たり、前席の頭が邪魔にならないようにするため、ある程度の傾斜を望む観客も多いと思います。急勾配になってしまう通路では、椅子に手掛かりになるものを付けるなどの工夫で対応できるのではないかと思います。	ご意見のとおり、一般的に、舞台上の演者の表情が見える限度が約22m、身振りが見える限度が約38mとも言われており、可能な限り視距離が短くなるように配慮するとともに、適切な客席の傾斜や、必要に応じて、千鳥配置の座席を採用するなど、舞台に向けての良好なサイトライン確保に努めてまいります。
40	P30に「客席は舞台からの最大視距離を極力短くする」と記載されています。最大視距離が短いことはホール自慢の一つになるので期待しています。さらに、できるだけたくさんの席が第1次許容限度（奥行きも考慮した舞台の中心からの距離22m）を満足していただけたらいいなと思います。また、演劇や歌謡ショーでは舞台全体が良く見えることも重要だと思いますので、前席の頭や2階席前の手すり邪魔にならない座席配置にしていただけたらいいなと思います。	
41	P30に「高品質で豊かな響きとセリフが聞き取りやすい響きを両立する」と記載されています。目指している響きはホールの自慢の一つになるので期待しています。設計業者がホールの幅と長さをどのように決めようとするのかとか、模型を使った実験も行うのかについて、業者選定時に考慮して選定していただけたらいいなと思います。	長い響きが好まれるクラシック音楽から、短い響きが好まれる演劇や講演会まで、幅広いジャンルの鑑賞に配慮した残響時間を目指すとともに、客席側の壁面や天井面に、適切に音の反射面・吸音面を配置し、座席位置によって、可能な限り響きの差が生まれてこないようにするなど、良質な音響空間を実現してまいります。
42	P30に「響きが全ての客席に均質に届く形状にする」と記載されています。大きなホールでは客席の位置によって響きが変わってくるものと思います。設計業者がどのような考えで設計をするのかについて、業者選定時に考慮して選定していただけたらいいなと思います。	
43	P30に「車いす席等を適切に配置する」と記載されています。コンサートでは観客が立ち上がることを予想して車いす席を設計していただけたらいいなと思います。	「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律施行令の一部を改正する政令」（令和7年6月1日施行予定）等を踏まえ、車椅子利用者の席を適切に配置するとともに、舞台に向けての良好なサイトラインの確保を図ってまいります。
44	舞台袖に、失聴、難聴者用のデジタル字幕設備があるとよい。	「5 施設整備計画」の「2 施設の構成と機能（大ホールエリア・客席）」に、「難聴者支援設備を設ける」と記載を追記しました。
45	P30の施設の構成の「舞台」に「仮設で設けることができる計画とする」とあります。これは本花道のことを指していると解釈はしますが、表現は具体性に欠けています。このホールの特性として、オーケストラピットに関する記載同様な機能（昇降式）をもたせるように設置し、歌舞伎や日本舞踊ほかが本花道を使用して上演できるような設計をお願いしたい。その配置イメージがP36にあります。花道は舞台と直角に客席に伸びるものであるはずですから、この図の花道の向きには違和感があります。イメージ図だからかもしれませんが、追りの位置も正確ではないと思います。過去、本県のホールには本花道が無いために、脇花道を使用しての歌舞伎、日舞の公演が行われ、本当の意味の本物を拝見することができないまま、観客は長い間、我慢してきました。	花道は、客席の中を通過して下手側に設置される「本花道」、上手・下手の壁際に設置される「脇花道」があり、幅広いジャンル・演出での活用可能性や、類似ホール施設の運用状況等を踏まえながら、詳細な仕様を決定してまいります。 なお、「施設配置イメージ図」について、設置位置に誤解を与えないよう、記載内容を修正しました。
46	「舞台」の項に緞帳等の記載がありますが、その中に定式幕がありません。この幕の必要性は書かずともわかることかと思うので、設置する旨を表現していただきたく思います。	定式幕は、歌舞伎や人形浄瑠璃等での使用が見込まれる、3色の縦縞幕であり、「5 施設整備計画」の「2 施設の構成と機能（大ホールエリア・舞台）」に、「定式幕を仮設で設けることができる計画とする」と記載を追記しました。

番号	意見（概要）	回答
47	客席数も大切ですが、舞台周りの機能充実こそが重要になると思います。舞台機能が劣っていると、他県のホールと天秤にかけられ、プロモーターから敬遠されることになり、ホールの稼働率にも影響してきます。一旦使いにくいホールと評価されると、なかなかその評価を挽回していくことは難しいかと思いますので、この段階でしっかり必要機能を整理してくれればと思います。特に、複数の学校の中高生が出演する大会や、大きな舞台道具が必要となる公演を見据えるのであれば、舞台の袖部分や舞台裏については、しっかりスペースを確保する必要があると思います。	主舞台は、県内で最大規模となる、幅18m程度、奥行き18m程度、高さ12m程度（最大）、袖舞台は、多数の出演者や大型の舞台道具の待機で必要となる幅を確保することとし、「5 施設整備計画」の「2 施設の構成と機能（大ホールエリア・舞台）」に、「上手・下手の合計で「20m程度」を上回る幅を目指す」と記載を追記しました。また、舞台裏において、公演中に出演者が上手と下手を行き来できる通路を設けるとともに、舞台の奥行きに合わせた照明、幕、吊物バトンを設けるなど、舞台周りの機能充実を図ってまいります。
48	女性用トイレ使用者の動線に言及した箇所が素案にあります。数量も問題だし、どのトイレが使用中でどのトイレが空いているといった表示をドアに取り付けることによって回転スピードのアップを図ることは必須だと思います。また、トイレエリア内は一方通行にすることも欠かせません。女性客が多い公演では男性用との間仕切りを可動式にしてあり、移動することにより効率アップを図る工夫も見られる昨今です。県がこうした最新の設計から遅れをとらないよう願うものです。	公演の幕間時等におけるトイレの混雑を見込んだ対策について、ご意見いただいた、トイレのドアへの空き表示や、イベント時によって可動で位置を変更できる間仕切りも含め、他の集客施設等での取組を参考にしながら、工夫を図ってまいります。
49	大ホールだけではなく、多目的スタジオや活動室の機能充実を図ってください。地方のホールでは、都市部のホールのように平日公演が毎日行われるわけではなく、日常的な活動に利用される多目的スタジオや活動室こそが、新ホールを活性化するための肝になるかと思えます。また、周辺にあるあわぎんホールやシビックセンターの会議室、活動室とすべて似たような造りにするのではなく、一定の差別化を図りながら、県民による挑戦的な取組みを後押しする部屋になればいいと期待しています。	練習利用のみならず、小規模な発表会、集会・大会、ワークショップなどの利用も可能な機能性が高い「多目的スタジオ」に加え、会議利用も可能な様々なサイズバリエーションをもった複数の「活動室」などを設置し、県民の幅広い活動を促進してまいります。
50	現在の藍場浜公園はイベントがなければ人影もまばらで、中心市街地の空白地帯になっていると思う。そこにホールができて街の雰囲気明るく変わることを期待したい。公園の中にできる建物だから身近な施設にしてほしい。	藍場浜公園（新町川公園）は、多くの県民の皆様にご利用いただいております。遊具をはじめとする公園機能は、今後も憩いの場として親しまれていくために、重要な要素であると考えています。
51	新ホールから駅に近い部分を道の駅のようにしたらいいかなと思います。藍場浜から東新町も。その流れで地方の観光地に直通のバスを出せたらいいと思います。飲食店の全国チェーン店ももっとあった方がいいと思います。	また、新ホールへのアクセスについても、利便性や安全面の向上が重要と認識しております。ご意見を踏まえ、現在利用されている公園機能に配慮して、オープンスペースの効果的な活用とともに、新ホールへの円滑な動線接続に向けて検討してまいります。
52	子連れで、藍場浜公園の遊具を利用しています。藍場浜公園との親和性という項目を見ましたが、この遊具がどうなるのかよくわかりませんが、遊具を利用している子育て世代は多いと思うので、こういう公園の機能はやめないでください。建物の屋上スペースを利用して、公園にしているところもあるようなので、そういうのもおもしろいと思います。あと、西と東を行き来するのに横断歩道を渡らなければならないのは不便で、安全面でも不安です。たとえば藍場浜公園と新ホールをつなぐ歩道橋のようなものがあれば、親和性・連続性という面でもいいのではないかと思います。とにかくせつかくホールを作るのであれば、公演があるときだけでなく、普段から人が来てにぎわうような、開かれた新ホールにしてほしいです。	
53	人口地盤は国道192号を跨いでアミコビル側に接続する。これにより歩行者の安全が増大する。新町川の対岸にも延長すれば一体の回遊性も向上する。	

番号	意見（概要）	回答
54	P34に「藍場浜公園との親和性」について記載されています。親和性を求めるということは新しいホールの外観はあわぎんホールとの一体感があるものを想定しているように思います。しかし、若い人は新しい時代を感じられる斬新なデザインを期待するようにも思います。外観を設計業者がどのような考えで設計をするのかについて、業者選定時に考慮して選定していただけたらいいと思います。	新ホール整備にあたっては、周辺の景観と調和した外観や内装にするとともに、公演鑑賞などの特定の利用用途がなくても、多くの県民の皆様が様々なきっかけで足を運ぶことができる魅力ある空間づくりに努めてまいります。
55	展示スペースに、大阪万博出展物を常設してはどうか。交流機能として、渦潮をモチーフとした足湯をつくるのはどうか。	
56	ホール計画が迷走して何年も経っているため早急に計画を進めてほしい。また、隣県である香川県には妹島和世氏が設計した新しいホールがもうすぐ完成予定であり差別化が必要であると思った。そして、ホール自体の建築デザインが与える経済への影響は大きいと感じており、白紙になってしまった石上純也氏がデザインされたものは斬新なものであり徳島県にとって新しい観光名所になるであろうと期待していた。藍場浜公園にできる新ホールにも県民が文化交流を行いながら、他県からも人を呼び込めるようなコンセプトやデザインを盛り込んだ計画にしてほしい。	
57	単なる箱建築など望んでいない。眉山、新町川などの自然や歴史に敬意をはらいながらそこに訪れた人の居場所をつくらなければならない。時間の経過とともに姿を変える生きた自然の醍醐味と同時に、その場所固有の変わらない自然の本質を感じられる場所をつくってほしい。対象とする場所には人が織りなしてきた歴史や伝統がある。そこに住み暮らして来た人々が大切にしてきた自然や地域の本質に素直に寄り添い、違和感を伴うことなく、新しい価値や造形、心惹かれる空間を付加した、街と調和した魅力的なランドスケープデザインとしてほしい。そうすれば訪れる人は増え、賑わいが創出されて地域価値も向上すると考える。	新ホール整備にあたっては、公演鑑賞などの特定の利用用途がなくても、多くの県民の皆様が様々なきっかけで足を運ぶことができる魅力ある空間づくりに努めてまいります。また、令和6年7月から8月にかけて実施した、興行関係者や1,500席規模の公立文化ホール施設等へのヒアリング結果も踏まえ、十分な幅と奥行きのある舞台や、大型車両が円滑に出入りできる搬入口などの機能性が高いホール整備に加え、管理運営面の工夫を行うことにより、様々なジャンルにおける質の高い公演の開催が可能であり、ランニングコスト面の優位性なども鑑み、大ホールは「1,500席程度」を下限としています。
58	キッチンカーなどが乗り入れられたり、多様な人々がちょっとした公演や演奏ができる人が集まる広場を整備してほしい。1階の大部分を壁が無く強靱な柱だけで構成された吹抜け空間として国道から簡単に乗り入れ可能な大型駐車、搬入スペース兼、市民県民の観光客の憩いの交流の広場にしてはどうか。カフェや徳島のお土産店、徳島県の観光地やイベント、他ホール含めた公演情報、飲食店など徳島の魅力を発信する場所もほしい。大ホールは1,800席以上のセンスの良い使いやすい施設を望む。	

番号	意見（概要）	回答
59	箱ではなく普段使いできるランドスケープを目指す。 ・公演だけではなく公演がない時も県民や観光客が普段使いできるように開けた施設にする。 ・多様で多彩なことに使用できるようにする。（例えばウォーキング、屋上でランチ、散策、遊山箱を持ってピクニック、ウエディング、展示会、出張動物園、出張美術館、出張博物館、勉強会、社交会、チームラボによるデジタルアート、ワークショップ、出張ポケモングッズ店、ちいかわグッズ店、貸切プラン、講演会、セミナー、譲渡会、大道芸フェス、文化フェス、阿波古事記フェス、ミニコンサート、ウォーターパークなど発想は無限大） ・維持管理費補填や持続可能で発展成長するために出展料やデザイン、広告料をいただき多様な方が利用できるようにする。（関係人口を増やす目的もある） ・これまで、より素晴らしい誇りの持てる価値あるホール施設実現のために積み重ねて来た知見をリセットするのではなく反映させて、やろうとしていた事柄を実現させること。 ・人口減少が加速している！特に15歳から35歳の転出超過を少しでも食い止めるためには魅力的な徳島としなければならない。そのためには他県でできる事は徳島でもできることを増やさなければならない。選挙権はないが小中学生も徳島県民だ。もっと若い県の声も吸い上げホール建設に反映させること。 ・建設した後も優秀な人材に運営していただくこと。	新ホール整備にあたっては、周辺の景観と調和した外観や内装にするとともに、公演鑑賞などの特定の利用用途がなくても、多くの県民の皆様が様々なきっかけで足を運ぶことができる魅力ある空間づくりに努めてまいります。 また、施設使命に基づいた事業展開や、高機能な施設、設備を安全に管理していくためには、管理者には高い専門性が求められ、中長期的な取組に向けた人材確保・育成が重要になると考えており、管理運営の目指す方向性を具現化できる組織体制を視野に入れていきたいと考えています。
60	この藍場浜公園西エリアでの新ホール整備は、魅力ある県都のまちづくりに向けたランドデザイン全体を見据えたものであり、単に音楽ホールを作るだけでない、徳島県の可能性を大きく広げるものであると思います。例えば、この新ホールは、あわぎんホールとの一体活用に留まらず、藍場浜公園、水際公園、交通公園、中央公園（徳島城跡）、アミコビル、ＪＲ（鉄道）、ひょうたん島クルーズ船等々、様々な連携が考えられ、これらの公園や施設と一体となった徳島駅を中心とした大規模な「音楽フェス」、「踊り（ダンス）フェス」、「アニメフェス」などの開催を可能とする核となる施設になるのではないかと思います。中央公園＜徳島城跡＞へのアクセスをスムーズにするため、また、駅に近い徳島城跡の魅力を高めるためにも、徳島駅北口開発は是非とも実現していただきたいと思っています。また、アクアチッタまで繋がるリバーサイド音楽祭など、色々な可能性が広がります。新ホール整備が、県都のにぎわいづくりに寄与する部分は非常に大きいので、今回の整備プランにおいても、さらに強調していただきたいと考えます。またリバーサイドのホールであることも魅力です。リバーサイドの景観はそれだけで観光資源となりうると思います。プランにも記載がありますが、周辺景観との一体性に配慮し、さらに水都徳島の魅力を高める施設としてデザインされることを願っています。	施設使命のひとつに、「文化芸術と人をつなぎ、県都のにぎわいづくりに寄与する」ことを位置づけており、新ホールが、文化芸術の「鑑賞や活動の場」とすることはもとより、誰もがくつろげる「憩いの場」として、多くの方々を惹きつけるとともに、近隣で開催するイベントと連携した取組などにより、県都のにぎわいづくりへの寄与に向け、施設の活性化を図ってまいります。

番号	意見（概要）	回答
61	P34に「エスカレーターを設置する」と記載されています。体の不自由な方など上層階へのアクセスに配慮が必要な方に対して、エレベーターは必要だと思います。しかし、エスカレーターの必要性については、他のホールの事例や維持管理費を精査して検討していただけたらいいと思います。	エレベーターやエスカレーターの設置については、バリアフリーの観点や、想定される動線の流れ、ランニングコストなどを踏まえ、数量や仕様を検討してまいります。
62	ランニングコストについて、低減することはもちろん大切な視点だと思いますが、コストカットー辺倒になることは避けてもらいたいです。コストカットの一つの目的としては、長期に渡って安定的に、県民に対して質の高い事業を実施したり、きめ細やかなサービスを提供するために行うものという視点を忘れないようにしてほしいと思います。	ご意見を踏まえ、「5 施設整備計画」の「4 施設整備における留意事項（ライフサイクルコストへの配慮）」に、考え方を追記しました。
63	P35に「避難所としての機能も備える」と記載されています。東日本大震災時には、震度6強の地震に耐える設計であったはずなのに震度5強の地震で屋根が落ちてきてしまったホールもあります。ホール所有者と設計施工業者間で裁判になり、結局は業者側の「想定外の地震だった」という主張が認められたようです。設計においては、設計時の基準の安全率を満たせばよいということになりますが、想定外の地震で壊れなかったホールもあれば、壊れてしまったホールもあるということです。南海トラフの巨大地震も半割れについての対応が求められるようになるなど、まだまだどのような新しい危険な事態が考えられるようになるかは未知数だと思います。このような中で、南海トラフの巨大地震震源域にある避難所として使用する大ホールを、設計業者がどのような考えで設計を進めるのかについて、業者選定時に考慮して選定していただけたらいいと思います。	公共施設として、建築基準法等の遵守はもとより、緊急避難場所や指定避難所等を見据えた機能確保など、防災・危機管理の視点をもって、新ホール整備を進めてまいります。
64	■3 各種設備 『津波浸水等が想定されるエリアに位置する』との記述との関連において、震災や津波を想定した対策について、具体的に記述すべきである。	ご意見を踏まえ、「第2 基本的事項」の「6 建設用地」に、「浸水想定」の項目を設け、洪水、高潮、津波の浸水想定の記事を追記しました。 また、浸水想定を見込み、主な電気系の機械室を想定の高さ以上の階に配置するなどの対策を想定していることから、「第5 施設整備計画」の「3 各種設備」にその内容を追記しました。
65	■6 建設用地 川の隣りへの建設であり、津波、浸水に対する不安は拭えない。後述されている「施設整備に関する留意事項」の「防災・危機管理の視点」の中でも、『津波浸水等が想定されるエリアに位置する』ことが明記されている。「ハザードマップ及びそれに対する評価」について、「法的条件等」と並行して、具体的に記述すべきである。	
66	■6 概算面積 『「11,000～12,000㎡程度」の延べ面積を想定』とあるが、あわぎんホールの『延べ面積14,386㎡』と比較して、いかにも狭い印象があり、大丈夫なのか危惧している。その懸念を払拭できるような記述をいれてもらいたい。	あわぎんホールは、大ホール（809席）、小ホール（リハーサル室）に加え、大会議室、会議室（10室）、大展示室、展示室（5室）、和室、木偶資料館を備えた施設であり、新ホールと想定する諸室の構成が異なりますが、新ホールについては、「新ホール整備候補地調査業務」において、調査モデルプランを作成し、延床面積は11,400㎡程度で算定しており、その前後の面積になると見込んでおりますので、その内容を追記しました。

番号	意見（概要）	回答
67	■8 整備費 (1) 整備費 全体事業費が明示されていない。「概算面積」の記述と対照的であり、「概算事業費」として合計金額を明記すべきである。①～④まで積み上げると172.5億円となるが、間違いはないか。	「新ホール整備候補地調査業務」において、調査モデルプランを作成し、概算金額で、本体工事費の約142億円、関連工事費の約12億円の合計約154億円（令和6年4月時点単価）の金額を見込んでおり、地下駐車場解体など考えられる要素については、可能な限り反映して算定し、すでに精度の高い金額になっているものと考えています。 また、整備費については、工事費のみならず、設計費、設計意図伝達費、工事監理費など、現時点で想定される経費は記載させていただきましたが、文化ホール施設として備えるべき機能性・利便性や、必要な品質の確保を図った上で、事業者に、独自技術やノウハウの積極的な活用を求め、可能な限りのコスト縮減に努めてまいります。
68	今回のプランに示されていないが、新ホール整備ついてどのくらいの経費がかかるのか具体的な金額を示してほしかった。素人考えで申し訳ないが、駐車場の解体と埋め立て、新町川横の津波対策や地盤の耐震化等を考えると、報道にあるような従来の計画より安価であるとは思えない。県には専門とする部署もあると思う。県民に情報を公開してほしい。藍場浜公園西エリアでの新ホール建設には無理があるのではないか。そのため、すでに施設の解体が終わった旧文化センター跡地での整備も含めて再考してほしい。	
69	P39に「整備費の縮減」について記載されています。オリンピックや万博など、当初の事業費から大幅増になる事例は多数あります。設計業者の選定にあたっては、工事発注時に人件費や資材単価増以外の理由で増額になってしまったり、工事着手後の追加工事や工法変更がないよう、業者の提案をよく見極めていただけたらいいと思います。	事業者選定に関するご意見について、参考とさせていただきます。 また、新ホール整備にあたっては、文化ホール施設として備えるべき機能性・利便性や、必要な品質の確保を図った上で、事業者に、独自技術やノウハウの積極的な活用を求め、可能な限りのコスト縮減に努めてまいります。
70	早く旧文化センター跡地で着工していれば当時の費用で進めれていたのに、藍場浜で再設計し直すとほぼほぼ建設費は高くなるでしょう。近い将来、郷土文化会館も老朽化は避けられなく、改修・新築しなければいけないし、10～20年スパンで見れば、トータルでは費用は余計にかかると思われる。今後何10年も使い続けるものなのだから、現時点のコストや時期にこだわるのではなく、未来に有効になるものを。個人的な価値観では、旧文化センター跡地の当初案ならホールとしての役割でだけでなく、観光地として集客できるデザインだったと思うのに本当に残念。この際、県立ホール建設はあきらめたらどうだろうか。大ホールはアスティ、ホール級は近隣府県に行けばいいし、鳴門市文化会館を鳴門市から譲渡してもらい県立化してもいいのでは。低コスト、早期開館にこだわるなら、この手が1番ベスト。	「新ホール整備候補地調査業務」において、調査モデルプランを作成し、概算金額で、本体工事費の約142億円、関連工事費の約12億円の合計約154億円（令和6年4月時点単価）の金額を見込んでおり、地下駐車場解体など考えられる要素については、可能な限り反映して算定し、すでに精度の高い金額になっているものと考えていますが、「藍場浜公園西エリア」での整備は、旧文化センター跡地における計画と比較すると、イニシャルコスト、ランニングコストの両面から大きなメリットを有しています。 新ホール整備にあたっては、文化ホール施設として備えるべき機能性・利便性や、必要な品質の確保を図った上で、事業者に、独自技術やノウハウの積極的な活用を求め、可能な限りのコスト縮減に努めてまいります。
71	プランを見ても文化センター跡地の計画を本プランに変更するメリットは、事業金額以外には見つけられません。しかし、地盤強化や周辺整備を含めて、本当に県市の出費が旧計画より目に見えて安上がりになるようには見えません。	
72	徳島市が新ホールを文化センター跡地に建設するために負担した、解体費や県に譲渡した土地評価額は15億円に上ります。県はこれを上回る規模の20億円のまちづくり支援基金を創設するとしています。ホール建設費は、文化センター案では194億円、藍場浜公園案では172億円、基金の額を加えると192億円となり、ホールの機能が劣るにもかかわらず、整備費はほとんど変わらないと言えます。当初の計画通り、文化センター跡地にホールを建設すれば、余分な基金を設立する必要もなく、機能に優れるホールが完成し、市議会の反発も起きません。ホールの建設場所は文化センター跡地にすべきです。	
73	■9 整備スケジュール オープン時期について、具体的な記述がなく、イメージがわきにくい。 2025年を事業開始年と仮定した場合のオープンの時期について、明記すべきである。2025年を事業開始年と考えると、オープン2030年が想定されるが、その理解で間違いはないか。	
74	藍場浜での1日も早いホール整備を期待しています。	「9 整備スケジュール」では、「新ホール整備候補地調査業務」等を参考にして、標準的に見込まれる期間を記載しております。 新ホール整備にあたっては、地下駐車場の効率的な解体など、事業者に、独自技術やノウハウの積極的な活用を求め、さらなる工期短縮と早期整備に努めてまいります。
75	新ホール早期整備プラン（素案）の策定、ありがとうございます。新ホールの早期整備は私たちの悲願ですので、できるだけ早い整備をお願いします。	

番号	意見（概要）	回答
76	この場所での計画では、藍場浜公園の各種イベントは少なくとも工事期間の数年間はまだ開催できない（工事ヤードとして使われる）ということを知らせたい。	工事期間中における資材置き場等の計画については、設計開始後に事業者と協議することを見込んでいますが、藍場浜公園内で行われるイベントはもとより、あわぎんホールの稼働に可能な限り影響を与えないよう努めてまいります。
77	全国でいつもワーストに入る徳島。県民はそれに慣れているかもしれませんが、せっかくの子どもたちが住みたいと思わなく、県外にどんどん出ていった結果、街は衰退するばかりです。それでも徳島は相変わらずなんのアクションも起こさず、意見を言う人ばかりが得をする。前知事含めてこの30年間、徳島は何か変わりましたか。その間に香川県はどんどん発展して行きました。もうそろそろ前向きに進みましょう。第十の堰から徳島は失敗を学んだはず。ホール反対している人たちは子供の将来や街の発展なんて二の次三の次なんですよ。でも、そんな人らの意見を聞いてストップしている時間はありません。利便性、コスト、全てにおいて藍場浜はベストなプランだと思います。	ご期待に応えられるよう、「藍場浜公園西エリア」において、早期整備に努めてまいります。
78	ホールの案が進まないままもうすでに30年が経っている。二転三転した結果、なにも進んでいなかった。そして今やっと県市が協調性を持って進めようとしている。このまましっかり新ホール稼働まで進めてもらいたい。民意は知事選・市長選の選挙結果によりはっきりしている。自信を持って進めてほしい。	
79	早期にホールを作っていただきたく、知事には現状をよく見ていただいて、駅周辺の整備は県民の意見をよく聞いて練られた整備計画を建てることとして、ようやく着工にまでこぎ着けた、文化センター跡地のホール建設に立ち返っていただきたい。	「藍場浜公園西エリア」は、徳島駅に近く、人の流れを呼び込むことが可能であり、水都のランドマークとなることが期待できるとともに、既に「県有地」であることに加え、去る3月に実施した試掘調査により、埋蔵文化財の影響を受けずに整備できることが分かります。一日も早い新ホール実現に向け、確かなメリットを有するものであると認識しています。
80	市文化センター跡地で進んでいた計画が、藍場浜公園西エリアへ唐突に変更された経緯、理由が全く明らかにされないまま当整備プランが進められていることに大きな疑問を感じます。そもそも市中心部の貴重な緑地空間、やすらぎ空間である6,000㎡以上の土地並びに地下駐車場を潰してまで当地に整備することは多くの県民・市民から理解を得にくいと思われます。	また、本パブリックコメントに加え、これまでも、令和5年8月から9月にかけて新ホール整備見直しに向けた「県民アンケート」を実施し、令和6年7月から8月にかけて興行関係者等に、10月から11月にかけて県内主要文化団体にそれぞれヒアリングを行うとともに、11月から12月にかけては、専門家を交えた「新ホール早期整備プラン意見交換会」を開催してきたところであり、今後も多くの皆様の声をいただきながら、新ホール整備を進めてまいります。
81	現時点でパブリックコメントを募集するのはおかしい。市議会を無視したやり方の弊害で、協定を白紙に戻そうとする動きもある中、県がまたしても一方的に事を進めようとしているだけに見える。パブリックコメントを募集することで『民意』の後ろ楯を得たように見せたいのだろうか。新ホールを政治の玩具にしていることも、県側が市議会を無視して暴走していることにもうんざりする。前提として、音楽ホールは文化センター跡地に造る方が無駄な費用をかけず、早く良いものができたはずである。藍場浜案は座席も少なく小ホールもなく、移転を決めた時点で金銭面での追加負担が発生するため、本来ならば固執する理由がない。そもそも協定を破って勝手に場所を移転したのは県側なのだから賠償金を払うのが筋だ。だが、それすらも頑なに拒否して藍場浜案を強硬している。積算根拠不明の20億の基金とは一体何なのか。20億もの金に全く具体的な根拠が示されない不透明さに異常なものを感じる。徳島県議会は機能不全に陥ったのか。県民の税金は県知事の我儘を叶えるためにあるのではない。このまま行くと、新ホールは県民不在の負のシンボルとして藍場浜に建設される。せめて道理を正し、予算の根拠を示し、議会での熟議を重ねた上でコメント募集を行うべきでしょう。現時点では、我々のコメントが『民意』として利用され、県の強引なやり方に正統性を与えることになる。市議会すらまごとも無視したものが、一県民の民意を汲み取って事に当たるはずもない。人を馬鹿にするのもいい加減にしてほしい。	

番号	意見（概要）	回答
82	そもそも、新ホールを文化センター跡地に建設する前提で、徳島市が行うべきホール建設を徳島県が肩代わりする代わりに、文化センター跡地に隣接する徳島市所有の土地を徳島県に譲渡するという、前知事と前市長の取り組みが「県市協調」でした。今も県や知事は「県市協調」とうそぶいていますが、後藤田知事と遠藤市長の個人間の合意です。市議会からの追及に追われると、市長自身も「個人として同意した」と口を滑らせる有様。市長の不十分な説明、その場逃れの言い訳により、市議会には市長に問責決議を出すなど、市議会の態度の硬化を招いており、もはや「県市協調」と言えません。また、ホール建設場所の、文化センター跡地から藍場浜公園への変更は、遠大で独善的な、知事のまちづくり構想の一環となるものです。曰く、ホール整備場所の変更、徳島駅周辺の高架化、駅北口の整備と市立体育館の場所へのアリーナ建設、文化センター跡地には高架の車両基地の建設。ホール1棟の建設費で採めた徳島の街や財政の規模を考えるに、とうてい実現が不可能と言えます。総事業費が高額になること、体育館がない空白期間、車両基地の騒音や煙の環境問題など市議会の反対は言うに及ばず、遠藤市長さえも乗り気ではありません。知事のまちづくり構想は完全に独り相撲であり、構想の一端となるホール整備場所の変更もやめるべきです。	「藍場浜公園西エリア」は、徳島駅に近く、人の流れを呼び込むことが可能であり、水都のランドマークとなることが期待できるとともに、既に「県有地」であることに加え、去る3月に実施した試掘調査により、埋蔵文化財の影響を受けずに整備できることが分かります。一日も早い新ホール実現に向け、確かなメリットを有するものであると認識しています。 また、「新ホール整備候補地調査業務」において、1,500席以上の高い機能性を備えたホールの整備が可能であることを確認しております。 令和6年9月14日には、徳島市長との会談において、「藍場浜公園西エリア」における県市協調での新ホール整備の取組方針について合意しており、藍場浜公園西エリアにおける新ホールの早期整備に取り組みたいと考えています。
83	徳島市議会が反対しているので、小松島や石井町に県民ホールを設置して、徳島市一極集中を避ける。反対されて徳島市に設置の理由が見つからない。高校生の数の予測では、高校は余ってくる。小松島は一校、石井町・板野町は高校は不要、鳴門も一校で充分、高校の学区制を廃止すれば、希望のない高校ばかりが増える。跡地の活用である。廃校舎の後に県民ホールで充分である。なんで、へこへこして徳島市にホールを作るのか分からない。	
84	ご成婚広場を音楽ホール建てる案には賛成。その結果、西新町のホテル施設等に関連性ができ、また周囲の船場の再開発も必要となり、立体駐車場や飲食店による街興しが可能になる。ただ、文化センター跡をJR車両基地にする案は広さの関係で疑問。それよりは、まず第2体育館として建設し、現在の駅北側体育館を撤去後に現在の武道館と現在の体育館の敷地を使ってアリーナ武道館として使えないか。また、第2体育館として建てた体育館をそのまま体育館とし、東署跡地に立体駐車場を作り、中洲の市場を改装充実させ、川の駅構想に組み入れ、海外の市場マーケットのようにして、市民の台所として活用し、またその食材の流通基地（陸路&水路）とすれば、観光客後多い時にも日曜日が定休日の飲食店も少しは減る（中洲は水曜定休日）のではないか。中央卸売市場は水曜と日曜が定休日のため、それを利用すると、やはり日曜日を休んでしまう飲食店が増えてしまうし、市民の台所として使うには位置的に不便であるし、中心市街地にデイリーの食品を扱うスーパーがないので、中洲市場の活性化は重要課題であると思う。	「藍場浜公園西エリア」は、徳島駅に近く、人の流れを呼び込むことが可能であり、水都のランドマークとなることが期待できるとともに、既に「県有地」であることに加え、去る3月に実施した試掘調査により、埋蔵文化財の影響を受けずに整備できることが分かります。一日も早い新ホール実現に向け、確かなメリットを有するものであると認識しているところであり、中心市街地活性化等に向けていただいた意見についても、今後の参考とさせていただきます。
85	新ホールは旧文化センター跡地が良いです。今予定の藍場浜の公園は市民の憩いの場として、自由に使用されています。大きな建物（新ホール）が建てば、その使用者のみが利用するだけとなり、それ以外の人にとっては何にもなりません。今大阪駅の前には大きな緑の公園ができています。最近では駅周辺に緑を設ける方向になっています。駅の周辺を中心に集客用の建物を多く建てても安らぎのある町並みにはなりません。また、全国的にも人口減少は避けられません。街の魅力は駅中心部分だけではありません。他県からの集客に望みはしなくて良いです。県民のための憩いの場としての存在を保つことが重要です。徳島駅の高架は必要ありません。駅西の踏切にも渋滞は少なく、今後も流れが悪くなることはありません。駅北側の公園に行くため、駅から高架橋（エレベーター付）を渡すことで、旧文化センターに行くにも充分です。これは北側に駅への入口を作るもので、北側にバスの乗降場を設置すれば便利になります。また市民の利便を考え、駅から10人乗りくらいの小さなモノレールを阿波おどり会館→紺屋町→県庁→市役所（文化センター）→駅に帰ってくる交通を考えてはどうでしょうか。	新ホールにおいては、公演の鑑賞や発表、練習など特定の用途による利用だけではなく、日常的に休息や散歩などの利用ができるよう、藍場浜公園全体の中で、連続性、親和性を持った空間とし、現在、憩いの場として利用されている公園機能に配慮をして、オープンスペースの効果的な活用を検討していきたいと考えています。

番号	意見（概要）	回答
86	早く建設できればなんでもよい！建設費は座席数を減らしてでも安くする！ではダメだ！ ・人口減少を食い止めるほどの上質な体験、上質な雇用、上質な様々な利益を産む新ホール施設にするためにはどうすればよいかを県民と一緒に考え作り上げて行く気概が必要がある。 ・無関心、諦め、負け癖がついてしまっている徳島県民にシビックプライドをもっと持たせてもらいたいと願う。安らぎ夢と希望が持てる徳島の明るく豊かな未来のために。	新ホールは、徳島県の文化芸術振興・創造発信の拠点や、文化芸術と人をつなぎ、地域の発展を支える「新しい広場」として、文化芸術の持つ力により、感動や希望を生み出していき、施設使命に基づき様々な取組を進めることで、人や地域に新しい変化をもたらし、県民に親しまれ、誇りとなる施設を目指していきたいと考えています。
87	県立新ホール整備に県民目線で検証。徳島県政執行部が、徳島駅周辺まちづくり構想で推進する、新ホール整備プランに関して、県民多数の意見を集約して、建設的、総合的に考察。 ・整備事業が、県勢発展に貢献寄与するか否か検証する。 ・県下を俯瞰して、重要課題の優先順位を厳選し検証実施すべき。 ・現今県内、現状把握し、近未来の課題を、予測分析し、ポジティブに適正に、政策を判断することが重要。 以上の観点から、新ホール整備を、県民真意から検証いたします。 [1]立地環境問題 徳島駅前周辺は、現況過密状況、駐車場満杯、交通渋滞、JR、バス便数少なく利便性極めて不良、新ホール等イベント集客は、一過性の人出にぎわいでは、街の発展に寄与しない。藍場浜公園内の立地は、県民の貴重な憩いと、イベント会場の減少は違和感、民意に反する事案。新ホール用地の地下駐車場撤去費は、12億円と見積り、無駄な経費と、軟弱地盤対策、更に川沿いで津波被害が、最大限、ホール使用不全の危険性予測。代案として、解体12億円を、市郊外に用地50,000㎡を取得可。ホール収容客数に応じた駐車場を完備すれば参加者の利便性に喜ばれ歓迎される。 [2]県立新ホール整備の検証 新ホール整備の根拠は、県都にホールが無い、県民の強い要望、文化振興等、推進に、整備ありきで進行していますが、音楽芸能の愛好者、ホールの受益者は、推計県民の1%、1万人程度、県民の90%はホール、利活用不要が現実、今、世界、日本未来「変革不透明時代」に喫緊に整備か検証を要する事案である。新ホールの整備費用対効果、総事業費172億円、1,500人のコンサートに感動ありきで、生産性無きに等しい。さらに、年間運営経費3億円予測され、県民負担増が、今後数十年続くことに、次世代に負の遺産レガシーとなる。県政執行の、現況把握、近未来分析は難題、問題山積、以下の事案を優先対策が、最重要課題として。県内人口五十万人割れ縮小経済対策。中小企業、農業、漁業の三重苦対策。赤字経営、高齢化、後継者不在廃業倒産。国の調査予測発表、県内十六自治体が消滅の危険性、郡部創生対策強化。南海トラフ巨大地震津波対策、工場の高台移転用工業団地の開発、新産業育成。	新ホールは、徳島県の文化芸術振興・創造発信の拠点や、文化芸術と人をつなぎ、地域の発展を支える「新しい広場」として、文化芸術の持つ力により、感動や希望を生み出していき、施設使命に基づき様々な取組を進めることで、人や地域に新しい変化をもたらし、県民に親しまれ、誇りとなる施設を目指していきたいと考えています。 また、「藍場浜公園西エリア」は、徳島駅に近く、人の流れを呼び込むことが可能であり、水都のランドマークとなることが期待できるとともに、既に「県有地」であることに加え、去る3月に実施した試掘調査により、埋蔵文化財の影響を受けずに整備できることが分かり、一日も早い新ホール実現に向け、確かなメリットを有するものであると認識しております。 いただいたご意見を踏まえ、交通アクセスや公園機能に対する配慮などの考え方について追記させていただきました。

番号	意見（概要）	回答
88	新ホールは、藍場浜公園ではなく、文化センター跡地に建設すべきだと思います。新プランへの変更の経緯の資料や説明を読めば読むほど、建設地の唐突な変更は、徳島駅高架や北口開発等の大型開発を進めるためのものでしかないと思いました。「新ホール早期整備プラン意見交換会」の議事概要は、1回目しか公表されていませんが、藍場浜公園での建設の問題点がいくつも指摘されています。まちづくりプランとは切り離して新ホール建設を早期に進める、そのための計画だと知事は説明していますが、藍場浜公園でのホール建設が進めば、文化センター跡地をどうするのかということになります。現在は、文化センター跡地への車両基地移転に同意しかねている徳島市長も、結局は、知事のプランに賛同せざるを得なくなります。私は、850億円（おそらくそれ以上の規模になると思います）もの巨額の開発事業は、県、徳島市の財政を圧迫し、その分、県民、市民の暮らし、福祉等への予算が削られることになると思うので反対です。ホールは、約50年間という長期にわたって使用されるもので、小ホールは必須です。音響はもちろん、楽器や機材の搬入経路、駐車場の問題等など、最良のホールを建てるのが最優先ではないでしょうか。制約の多い藍場浜公園を建設場所として提案したこと自体に、知事の「ホール軽視」の姿勢が表れていると思えてなりません。県民、市民は、早期のホール建設を望んでいます。それを人質に、藍場浜公園での建設を押し付けるやり方に怒りを禁じえません。	「藍場浜公園西エリア」は、徳島駅に近く、人の流れを呼び込むことが可能であり、水都のランドマークとなることが期待できるとともに、既に「県有地」であることに加え、去る3月に実施した試掘調査により、埋蔵文化財の影響を受けずに整備できることが分かり、一日も早い新ホール実現に向け、確かなメリットを有するものであると認識しています。 また、新ホールの機能については、「新ホール整備候補地調査業務」において、調査モデルプランを作成し、大ホールの客席（3層・1,504席＋仮設席・立見席）をはじめ、舞台（開口幅・奥行きともに約18m）、搬入口（11tトラック2台分）、楽屋、ホワイエ、リハーサル室、多目的スタジオ、活動室等の配置が可能であることを確認しておりますが、小ホールについては、隣接するあわぎんホールを一体的に活用することにより、2パターンの搬出入経路の確保や、あわぎんホールの一体活用時は大型車両の複数台待機が可能になるものと考えています。 新ホールの整備にあたっては、現在利用されている公園機能、周辺道路への渋滞の配慮や、地下駐車場解体の影響を最小限にとどめる工夫を行うとともに、「第5 施設整備計画」の「2 施設の構成と機能」にお示ししているとおり、機能性の高いホールとなるよう努めてまいります。
89	藍場浜公園西エリアに新ホールを作るのは反対です。理由としては、御成婚広場であること、下の駐車場の一部をこわさなくてはならないこと、この場所は交通量が大変多く、バス等でここに来る場合乗り降りに車を止めなければならないので、混雑が予想されます。そして、また、藍場浜公園として毎年多くの催し物をしているが狭くなると危険を伴います。私は、眉山下の西新町か東新町に県が用地を買い取ってこのあたりに大きいホールと小ホールを合わせて作るべきだと思う。私は元高校教師をしていて、文化祭の時等に多くの高校生が一同に入れて演奏をしたり、聞いたりする場所が必要です。一度作ると二度と作れない建物です。よく御検討いただいて作ってほしいです。もうすでに当初より相当に遅れているので、遅れてもいいです。十分に考えて作ってほしいです。多くの県民の方々もホールには関心をいただいています。費用は税金であると思うのでよく十分に御検討いただきたいです。	「藍場浜公園西エリア」は、徳島駅に近く、人の流れを呼び込むことが可能であり、水都のランドマークとなることが期待できるとともに、既に「県有地」であることに加え、去る3月に実施した試掘調査により、埋蔵文化財の影響を受けずに整備できることが分かり、一日も早い新ホール実現に向け、確かなメリットを有するものであると認識しています。 また、新ホールの機能については、「新ホール整備候補地調査業務」において、調査モデルプランを作成し、大ホールの客席（3層・1,504席＋仮設席・立見席）をはじめ、舞台（開口幅・奥行きともに約18m）、搬入口（11tトラック2台分）、楽屋、ホワイエ、リハーサル室、多目的スタジオ、活動室等の配置が可能であることを確認しております。 新ホールの整備にあたっては、現在利用されている公園機能、周辺道路への渋滞の配慮や、地下駐車場解体の影響を最小限にとどめる工夫を行うとともに、「第5 施設整備計画」の「2 施設の構成と機能」に考えをお示ししているとおり、機能性の高いホールとなるよう努めてまいります。

番号	意見（概要）	回答
90	新ホール早期整備プランは、徳島県民一人一人の声を無視、徳島県民一人一人の民意を蔑ろにしたもので、断固糾弾する。新ホール早期整備プランは、徳島県の県議会の意見軽視並びに徳島市の市議会の意見軽視したものであり、民主主義を否定したので断固糾弾する。後藤田正純徳島県知事と遠藤彰徳島市長は高等学校の「公共」の教科書で勉強しなければならない。	「藍場浜公園西エリア」は、徳島駅に近く、人の流れを呼び込むことが可能であり、水都のランドマークとなることが期待できるとともに、既に「県有地」であることに加え、去る3月に実施した試掘調査により、埋蔵文化財の影響を受けずに整備できることが分かり、一日も早い新ホール実現に向け、確かなメリットを有するものであると認識しています。
91	徳島県民が望む徳島県の魅力度アップ並びに地方創生戦国時代を勝ち抜き徳島新時代に向けて、予算、設計協議は凍結中止しなければならない。新ホールは建築学的に、広くて立派で全国に誇れる良い施設でなければならない。名古屋工業大学工学部建築・デザイン分野卒業の一級建築士が言っている。新ホールVSカナモトホール（札幌市民ホール）、神奈川県民ホール、愛知県芸術劇場、兵庫県立芸術文化センター、岡山芸術創造劇場ハレノワ、滋賀県立芸術劇場びわ湖ホールなど。後藤田正純徳島県知事は、現場主義でカナモトホール（札幌市民ホール）を視察している。（令和6年4月26日）	また、「新ホール整備候補地調査業務」において、1,500席以上の高い機能性を備えたホールの整備が可能であることを確認しております。 令和6年9月14日には、徳島市長との会談において、「藍場浜公園西エリア」における県市協調での新ホール整備の取組方針について合意しており、藍場浜公園西エリアにおける新ホールの早期整備に取り組みたいと考えています。
92	後藤田正純徳島県知事は、徳島県民の民意を無視した強引な政治手法による唐突・早急・拙速な「新ホール整備プラン」は凍結中止しなければならない。後藤田正純徳島県知事は自分勝手並びに自分都合で、Xに「新ホール整備計画に終止符だ」と投稿した。後藤田正純徳島県知事は徳島県民を侮辱している。徳島県民をなめている。徳島県民を愚弄している。後藤田正純徳島県知事は徳島県議会の承諾なくして、株式会社日建設計（代表取締役社長）を訪問した。徳島県議会の九月定例県議会の会期中。後藤田正純徳島県知事は知事戦略公室にじっといられないことが認識できた。	また、令和5年8月から9月にかけて新ホール整備見直しに向けた「県民アンケート」を実施し、令和6年7月から8月にかけて興行関係者等に、10月から11月にかけて県内主要文化団体にそれぞれヒアリングを行うとともに、11月から12月にかけては、専門家を交えた「新ホール早期整備プラン意見交換会」を開催してきたところであり、今後も多くの皆様の声をいただきながら、新ホール整備を進めてまいります。
93	藍場浜公園西エリアにおける新ホール早期整備プランは徳島県民一人一人を愚弄したものであるから断固糾弾する。後藤田正純徳島県知事はXに「徳島新ホール整備計画に終止符を打った」と投稿した。後藤田正純徳島県知事はXに「徳島新ホールに向けて株式会社日建設計で有意義な議論ができました」と投稿した。後藤田正純徳島県知事は令和6年10月3日に株式会社日建設計に出向いて、代表取締役社長と面会した。	
94	短絡的で独断と偏見・無謀に満ち溢れた新ホール早期整備プランを断固糾弾する。なぜ藍場浜公園になったのか説明ができていない。透明度が0%である。国家資格試験の宅地建物取引主任士資格試験並びに不動産鑑定士試験の不動産に関する行政法規に基づいて、民法（物権）、建築基準法、都市計画法、都市公園法に基づいての丁寧な説明が必要である。	
95	本質・意義・動機づけや理由づけのない大義名分なしの藍場浜公園西エリアにおける新早期整備プランを断固糾弾する。急がば回れで原点回帰。	
96	藍場浜公園西エリアにおける新ホール早期整備プランは、徳島県民一人一人からの目線、徳島県民一人一人に軸足を置いて十分な議論や十分な討論を積み重ねていかなければならない。	
97	藍場浜公園西エリアにおける新ホール早期整備プランは、初心に立ち帰って徳島県民第一主義並びに徳島県民主役主義でなければならない。	
98	藍場浜公園西エリアにおける新ホール早期整備プランは、論理的思考の見地から帰納法及び演繹法の双方を用いる。藍場浜公園西エリアにおける新ホール早期整備プランは、流れ図（フローチャート）の手法を用いる。アルゴリズムの図式化。	
99	「〇〇計画」等を踏まえ、や「〇〇条例」等に基づき、とあるところ、「等」に含まれるのが明確なものが他にある場合は、県民や整備関係者と共通認識をもつためにも、できる限り記述してもらいたい	いただいたご意見を踏まえ、「等」でまとめているものについて、一部、内容を追記しました。